

## 関西国際空港と関西の 更なる発展に向けて



(財)関西空港調査会 理事長 吉川 和広

新年あけましておめでとうございます。

関西国際空港は昨年8月、2本目の滑走路を供用開始し、我が国初の本格的24時間運用の国際空港として新たなスタートを切り、就航便数も中国路線を中心に拡大を続けております。

今年は、関西国際空港がアジアそして世界と関西を結ぶゲートウェイを目指し、我が国を代表する国際貨物ハブ空港としての実績を築いていくとともに、関西が関西国際空港とともに活性化し、発展していく年にしなければなりません。

24時間運用可能な2本の滑走路を有する関西国際空港がその能力をフルに発揮するためには、「アジア・ゲートウェイ構想」でも課題としてあげられている連絡橋料金引き下げをはじめとするアクセスの改善、財務構造の抜本的改善を通じた国際競争力の強化、物流関連施設の整備といったアジアの国際空港間の競争に打ち勝つための条件整備がなによりも必要であります。

これにより、関西国際空港が旅客分野、貨物分野の双方において需要を伸ばし、ひいては関西が活性化する、また、関西が活性化することにより関西国際空港の需要が伸びるといふ好循環を作り出すことが可能になると信じております。

そういう意味で、来年度予算において、連絡橋の道路部分の買い取りと2期島の国際

貨物施設の建設事業費が認められたことはその第一歩であり、大変喜ばしいことであります。

引き続き、関西国際空港がアジアの国際空港間競争に打ち勝ち、関西とともに発展していくための条件整備に向け、関係者が一丸となって努力していかねばなりません。

当調査会は設立以来32年目を迎えますが、これまで、関空プロジェクトにおける環境面や地域整備面で公正な第三者機関としての社会的役割を果たしてきたと自負しております。

関西国際空港の2本目の滑走路が供用開始され、関連事業の環境監視業務等が終了時期を迎えるなど、当調査会をとりまく経営環境は厳しさを増しておりますが、公正かつ中立的な第三者機関として、引き続き、関西国際空港に係る環境監視の実施機関としての役割を果たしてまいりますとともに、「航空交通研究会」や「エアポートビジネス研究会」、「ロジスティクス研究会」等の自主的研究活動やシンポジウム、講演会の開催など公益的立場からの情報発信、提言活動を活発に行い、道路ネットワークの整備をはじめ関西国際空港と関西の発展に向けた諸課題の解決に貢献してまいりたいと考えております。

引き続き、皆様方のご支援ご指導をお願いいたします。